

第6学年 国語科学習指導案

指導者 高橋 恒久

- 1 日 時 平成21年 5月 19日(火) 第6校時
- 2 場 所 6年生教室
- 3 学 年 第6学年 9名(男子3名, 女子6名)
- 4 単元名 依頼の手紙を書こう
- 5 単元について

- 本単元は、国語科学習指導要領第5学年及び第6学年「B書くこと」の内容ア、イを受けて設定されている。

六年生ともなれば、学校外の人たちに対して何らかの依頼をする機会も出てくる。そこで、これまでに学習してきた手紙の書き方を生かして、相手に対して礼を失することなく、目的や意図を明確に伝える依頼の手紙を書く機会としたい。

依頼の手紙には、手紙の形式に対する理解はもちろん、内容を正確に伝える表現や適切な言葉遣いなど、さまざまな書く工夫が必要になる。したがって、最上級生が書く練習をするにはふさわしいものといえる。本単元の学習は、自分の思いを豊かに表現する力を高めるものであるとともに、今後の児童の生活において、生きて働く力になるものである。

- 児童はこれまでに、手紙を書く学習を積み重ねてきている。二年では、手紙の基本構成を学び、出来事を身近な人を書いて伝えることを、三年では、必要な要素を落とさずに行事などへの招待状を書くことを、四年では、礼状の書式を理解してお礼の手紙を書くことをそれぞれ学んだ。また、中学年では、はがきや封書の書式についても学んでいる。そして、五年では質問状を書く活動を経験している。しかし、児童が実際に手紙を書く機会は少なく、学習したことが習得されているとはいえない。

本学級の児童は、四月から生活日記や学習日記を書いており、一つの出来事や学習内容をノート2ページ程度の文章にまとめて書くことには慣れている。しかし、誤字脱字もあり、敬語の使用も不適切であることがある。手紙については、学校以外では年賀状を書いていること以外はほとんどされていない。

- 指導にあたっては、まず、「書いて伝えたいと思える場」を設定したい。そのために、教科書の例文を見せずに、読み聞かせをもとに手紙を再現する学習を行うことを伝える。

書く力を高める指導の工夫として、再話の手法を取り入れる。1回目は読み聞かせだけ。2回目の読み聞かせはメモ可。次に、手紙の展開に沿って問いを出し、ノートに答えだけを書かせる。最後に、ノートを見ながら手紙を再現させる。

「前文」「本文」「末文」「後付け」という形式のそれぞれに書く主な内容をメモさせ、それをもとに手紙全体を再現させる学習を仕組む。形式を理解させながら自ら手紙を書き上げるという体験を通して、書くことに対する苦手意識を克服し、書く楽しさが実感できるように指導したい。

6 単元の目標

- 依頼の理由や内容を整理して、目的や意図に応じて分かりやすく依頼の手紙を書く。

7 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書 く 能 力	言語についての知識・理解・技能
相手や目的を考えて依頼の手紙を書こうとしている。	手紙の形式を理解し、依頼の理由や内容をはっきりさせ、目的や意図に応じた表現を考えて依頼の手紙を書いている。	文や文章にはいろいろな構成があることについて理解し、活用している。

8 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学 習 内 容	評 価				評価方法
			関	書	言	具体的評価規準	
一	1	例文の再話を通して、依頼の手紙の書き方について理解する。 【本時】	○	○	○	【関】依頼の手紙を書くことに興味を持ち、進んで学習に取り組もうとしている。 【書】依頼の手紙の形式を理解している。	行動観察 ノート 発言
二	2	依頼の理由や内容を整理し、手紙の形式に気をつけて内容や目的に応じて依頼の手紙の下書きをする。	○	○	○	【関】相手や目的を考えて依頼の手紙を書こうとしている。 【書】依頼する理由や内容を整理して書いている。	行動観察 手紙
三	3	依頼の理由や内容が明確になるように注意して見直し、清書する。		○		【書】目的や意図に応じた表現になっているか考えながら清書している。	手紙

9 本時の展開

（1）本時の目標

依頼の手紙の書き方について理解する。

（2）観点別評価規準

依頼の手紙の形式を理解している。

（3）学習展開（第1時）

学 習 活 動	指導上の留意点（◇） （◆「努力を要する」状況と判断される児童への手立て）	評価規準 （評価方法）
1 本時の学習を確認する。 依頼の手紙を再話しよう	◇ 本時のめあてを確認し、学習への意欲を持たせる。	B おおむね満足できる状況 「前文」「本文」「末文」「後付け」という形式で依頼の手紙の例文を意味の通る文章で再現できている。 （ノート）
2 再話の手法で依頼の手紙の書き方を理解する。 （1）例文の読み聞かせを聞く。 （2）例文の読み聞かせをメモを取りながら聞く。 （3）手紙の形式に沿った問いに答える。 （4）ノートを見ながら手紙を再現する。	◇ 一問一答で進め、答えは板書する。 ◇ ノートに書いた言葉は必ず使う。 ◆ 手紙の進行状況がとらえやすいように、使った言葉には線を引かせる。	
3 次時の学習について知る。	◇ 依頼の手紙を書く相手を決めさせる。	

本時のポイント

手紙の形式を理解させる指導の工夫として、再話の手法が有効であったか。